

変わりゆく都市、進化する 消防防災 ～新潟の未来を支える力～

新潟市消防局長 阿部 一彦



日本海側の拠点都市である新潟市は、国際空港や港湾、新幹線、高速道路網といった充実した交通基盤に加え、全国有数の水田面積を有する大農業都市という多面的な魅力を備えています。この独自性を活かし、「田園の恵みを感じながら 心豊かに暮らせる 日本海拠点都市」を目指して、都市機能の再構築と地域の持続的発展に取り組んでいます。

その中核を担うのが、「にいがた2km（ニキロ）」プロジェクトです。新潟駅から万代、古町にかけての都心エリアを再編成し、交通・商業・文化・防災が融合した活力ある空間づくりを推進しています。令和6年度には新バスターミナルが開業したほか、駅ビルも約60年ぶりにリニューアルされるなど、都市の中枢が新たな表情を見せはじめています。

都市機能の進展に伴い、私たち消防機関も変化に対応するための進化が求められています。特に注力しているのが、災害対応能力の高度化です。令和7年度には、災害時の情報集約と部隊運用の最適化を目的とした「災害時消防オペレーションシステム」を整備し、現場の情報をリアルタイムに把握・共有する体制を構築します。これにより、複雑化・大規模化する災害にも即応できる部隊運用が可能になります。

また、発生が予見される南海トラフ地震など広域的な災害が発生した際には、本市は救援活動の支援拠点＝「救援都市」としての重要な役割を担うことになります。交通アクセスの良さや災害リスクの相対的な低さという地理的優位性を活かし、応援部隊や支援物資の中継拠点として機能するための応援体制の強化にも力を入れています。

一方、全国的な課題となっている救急需要の増加への対応については、令和7年度から救急隊員の労務負担軽減を図るため、所属内での待機署所の柔軟な入替、消防隊と救急隊の乗換運用、日勤救急隊の配置など、機動的で持続可能な救急体制への転換を図ります。これに加えて、救急業務のICT化を積極的に進めており、自動記録化システムなどの活用により、病院照会や活動記録票作成業務の効率化と出動時間の短縮につながるなど効果が表れ始めています。

そして、私たちの組織そのものも、未来を見据えて持続可能な姿に再構築しています。新潟市の人口は政令市移行時から減少傾向にあり、少子高齢化の影響も顕著です。その中で、優秀な人材を確保し続けるために、経験者採用や臨時的任用職員採用の創設など、多様な人材を受け入れる柔軟な採用制度を構築しました。さらに、令和7年度に始動した「FIRE×FAMILY ～とも育てプロジェクト～」では、男性職員の育児休業取得を組織的に積極的に推進し、家庭・職場・地域全体の信頼と協力関係を高めています。

気候変動による自然災害の激甚化や社会構造の急激な変化に直面する今、消防防災の任務はますます複雑化しています。だからこそ私たちは、技術力、組織力、そして人間力を融合させ、「災害に強く、人にやさしい」消防を実現していかなければなりません。全職員がそれぞれの使命を誠実に果たし、強いチームワークにより支え合い、補い合いながら、これからも新潟市の安全・安心を守り続ける力強い組織づくりに邁進してまいります。